

令和 6 年 6 月 7 日現在

機関番号：11601

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2023

課題番号：18K12623

研究課題名（和文）憲法学と歴史学の対話可能性の再検討 戦後経済史学との協働と相克の過程に着目して

研究課題名（英文）On the possibility of dialogue between constitutional studies and historical studies: How the constitutional scholars either concurred or contradicted the historical research of Kohachiro Takahashi

研究代表者

阪本 尚文 (Sakamoto, Naofumi)

福島大学・行政政策学類・准教授

研究者番号：60707800

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、憲法学が戦後日本を代表する経済史家、高橋幸八郎とその門下生の歴史研究といかに協働ないし相克したのかを分析することを当初の目的に据えたが、研究開始後に高橋関連書簡などを発見したために、それらの整理・分析し、高橋の憲法思想を別決することに労力を費やすことになった。紋切り型イメージに還元し切れない複雑な相貌を高橋史学は有しており、しかも、敗戦直後には早くも政治の基層に位置する憲法とそれが保障する基本的人権への関心を示していた高橋は、経済的自由にとどまらずに、前文、平等、97条、そして平和論へと自身の憲法思想を発展させていったことが、明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、高橋史学に憲法学・政治学的な洞察が含まれていたことや、高橋史学が法学者によって受容されたことを明らかにしたが、高橋史学の越境性は、分野外の専門家や郷土の市民、そして海外の読者など、多様な読みに受容されたこととも密接に関わるものであった。「歴史を業とする者たちの内輪での歴史の行いと、それ以外の圧倒的に多数の人びとの歴史の行いとの間、相互の理解が困難なほどに乖離が発生」（小野塚知二）する現在にあって、両者を架橋しようと苦闘している多くの歴史家にとってこそ、高橋史学のこうした従来知られていなかった性格は、示唆深いものとなるであろう。

研究成果の概要（英文）：The initial objective of this study was to analyze how constitutional law either concurred or contradicted the historical research of Kohachiro Takahashi, a leading postwar Japanese economic historian, and his students. However, after starting the research, I discovered letters and other materials related to Takahashi, and spent a lot of effort in organizing and analyzing them and subsequently deepening my understanding of Takahashi's constitutional thought. It became clear that Takahashi's historiography has a complex aspect that cannot be reduced to a stereotyped image, and that after the defeat in the war, Takahashi, who had shown interest in the Constitution and basic human rights, developed his constitutional thought not only in economic freedom but also in the Preamble, the concept of equality, Article 97, and pacifism.

研究分野：憲法、史学史

キーワード：高橋幸八郎 京城帝国大学 戦後憲法学

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

戦後憲法学の言説空間では、歴史学の諸分野のうち経済史学のフレームワークが選択的に受容され、現行憲法の最重要概念のひとつである国民主権(憲法1条)を読み解く際の指針となってきた(杉原泰雄『国民主権の研究』岩波書店、1971年;樋口陽一『比較憲法』青林書院新社、1977年)。もっとも、憲法学の基礎理論と経済史学との密接な結びつきは1970年代後半からしだいに低調となり、経済史学を含む歴史学全般と憲法学との隔たりは拡大していった。それと軌を一にして、主権論や経済的自由権をめぐる基礎的研究は、いくつかの重要な例外があるとはいえ、長期の「停滞」に直面することになった(田村理『フランス革命と財産権』創文社、1997年;辻村みよ子「国民主権」法律時報80巻8号、2008年)。他方、2012年に有力保守政党が公表した改憲案が、現行憲法97条に見られる個人の人権の普遍性という原理を捨てて前文に国民の苦難と栄光の歴史物語を書き込み、「長い歴史」、「固有の文化」、「良き伝統」(以上、改憲草案前文)に対する訴求を通じて憲法の正当化を図ったことで、前文改正の是非が復古的歴史観への賛否と直結して議論される事態が進行している。

### 2. 研究の目的

改憲が現実の政治日程に上り、憲法前文が歴史認識をめぐる論争の対象となるなかで、どうすれば憲法学は歴史学と相互に触発し合う好循環を生み出すことができるのかを明らかにするために、憲法学が戦後の一時期まで社会科学の主潮流であった経済史学といかに切り結んだのかあるいは行き違いに終わったのかを解明することが、本研究の当初の目的であった。

### 3. 研究の方法

戦後日本を代表する経済史家、高橋幸八郎とその門下生の歴史研究と憲法学との協働と相克の諸相を分析した。ただし、研究開始後に、1000通を超える高橋関連書簡および高橋の日記80冊あまりが発見されたことから、それらを整理・解読しつつ、当初の研究目的を解明するための前提となる高橋の憲法思想を剔抉することに、研究期間の後半は専ら取り組んだ。

### 4. 研究成果

- (1) 高橋のフランス革命史・経済史研究(高橋史学)の方法論的特徴を分析した。その最大の特徴は、史料を虚心坦懐に読めば歴史の実態(それは本来いかにあったか)が自ら見えてくるという「戦後歴史学以前の、素朴実在論的実証主義」を峻拒し、歴史家の営みが主体的な問いかけによる歴史像の再構成であることを強調する点にあった。
- (2) 「封建制から資本主義への教条主義的な移行論者」ないし「大塚久雄の亜流」という紋切り型のイメージに還元し切れない複雑な相貌を高橋は有しており、しかも、敗戦直後には早くも政治の基層に位置する憲法とそれが保障する基本的人権への関心を示していた高橋は、経済的自由にとどまらずに、前文、平等(14条)、97条、そして平和論へとその憲法思想を発展させていったことが、明らかになった。
- (3) 戦後憲法学をけん引した憲法学者である樋口陽一と杉原泰雄が、高橋史学といかに対質したのかを検討した。高橋の比較史のフレームワークに準拠して比較憲法学の構築を目指したのが若き日の樋口陽一であり、封建的土地貴族と中産の生産者の対抗関係として市民革命を把握するとともに諸憲法をその「表現」として類別化する高橋のシェーマは、樋口の比較憲法学体系の骨子となっていた。一方、杉原は高橋の図式を「逆転」させることで裏側から高橋を

強く意識しながら、高橋が敗戦前後に依拠したフレームワークを、安定化した戦後体制を打破するために換骨奪胎しようとしていた。

(4) 高橋に師事した経済史家、岡田与好が提起した「営業の自由論争」はなぜ行き違いに終わり、両学問分野の対話は停滞していったのかを分析した。戦後日本の改革の歴史的意義を世界史のなかに位置づけて理解しようとする戦後経済史学特有の問題意識への共感が岡田に反発した法学者たちには存在しないことが、論争が不毛なものに終わった重大な要因の一つではないか、と考えるに至った。

(5)(4)で扱った「営業の自由論争」の帰結が暗示するように、戦後経済史学のフレームワークは、その有効性が歴史学界において失われつつあった時期に戦後第二世代の憲法学説形成に強い影響を及ぼしたが、大勢としては憲法学ないし法学一般でもやがて通用力を失っていたことは否定できない。もっとも、1980年代末の日本でもなお共同体のなかに個人が埋没しているという認識のもと、樋口が岡田説の延長線上に「ルソー＝ジャコバン型」国家像を提唱し、(個人を析出するという意味での)市民革命を再演する必要性を訴えたように、たとえ実証性において戦後経済史学が克服されたとしても、日本国憲法の理念が現実の政治・社会状況のなかで脅かされていると考える憲法学者が、日本国憲法に埋め込まれている(と信じるところの)理念的価値に照らして現実のわが国の政治・社会のあり方を批判しようとする限り、憲法学者が戦後経済史学を再び想起する潜在的可能性は今後も存在し続けることになる。「『思想』としての戦後経済史学」は、公権力側の「支配的な物語」に対抗する有力な「対抗・物語」(巻美矢紀)の手がかりとして依然として憲法学にとって「有用な過去」(サンスティン)なのであって、この知見は両学問の間になお対話が成立する可能性を示唆しているのではないか、という予想を得た。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 12件）

|                                       |                       |
|---------------------------------------|-----------------------|
| 1. 著者名<br>阪本尚文                        | 4. 巻<br>15            |
| 2. 論文標題<br>象徴・コロナ・SNS                 | 5. 発行年<br>2022年       |
| 3. 雑誌名<br>大警視だより続刊                    | 6. 最初と最後の頁<br>19-21   |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし         | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>-             |
| 1. 著者名<br>阪本尚文                        | 4. 巻<br>16            |
| 2. 論文標題<br>満鉄図書の旅、満鉄図書への旅             | 5. 発行年<br>2023年       |
| 3. 雑誌名<br>大警視だより続刊                    | 6. 最初と最後の頁<br>25-29   |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし         | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>-             |
| 1. 著者名<br>阪本尚文                        | 4. 巻<br>12            |
| 2. 論文標題<br>暗い時代の人々 博棟華と朱紹文のこと         | 5. 発行年<br>2021年       |
| 3. 雑誌名<br>大警視だより続刊                    | 6. 最初と最後の頁<br>12 - 14 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし         | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>-             |
| 1. 著者名<br>阪本尚文                        | 4. 巻<br>14            |
| 2. 論文標題<br>押し付け憲法論雑感ー憲法の「出生の秘密」をめぐって  | 5. 発行年<br>2022年       |
| 3. 雑誌名<br>大警視だより続刊                    | 6. 最初と最後の頁<br>20 - 21 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし         | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>-             |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>阪本尚文                                 | 4. 巻<br>14            |
| 2. 論文標題<br>垣見隆禎教授の 中間団体としての自治体 論 廃藩置県 150 年に思う | 5. 発行年<br>2022年       |
| 3. 雑誌名<br>大警視だより続刊                             | 6. 最初と最後の頁<br>18 - 19 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                 | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)         | 国際共著<br>-             |

|   |                    |
|---|--------------------|
| 1. 著者名<br>阪本尚文                              | 4. 巻<br>第33巻第4号    |
| 2. 論文標題<br>福島学派の遠雷 草創期福島大学経済学部の教官群像と井上紫電の軌跡 | 5. 発行年<br>2021年    |
| 3. 雑誌名<br>行政社会論集                            | 6. 最初と最後の頁<br>1-40 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし              | 査読の有無<br>有         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)      | 国際共著<br>-          |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>阪本尚文                         | 4. 巻<br>11          |
| 2. 論文標題<br>「福島学派」の遠雷 井上紫電における憲法哲学の胎動   | 5. 発行年<br>2020年     |
| 3. 雑誌名<br>大警視だより続刊                     | 6. 最初と最後の頁<br>29-31 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著<br>-           |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>阪本尚文・堤雄一郎・横島善子                       | 4. 巻<br>89巻3号       |
| 2. 論文標題<br>未公開エゴ・ドキュメント研究と著作権法 高橋幸八郎関係書簡を事例として | 5. 発行年<br>2020年     |
| 3. 雑誌名<br>商学論集                                 | 6. 最初と最後の頁<br>13-24 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                 | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)         | 国際共著<br>-           |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>阪本尚文                                  | 4. 巻<br>第32巻第4号       |
| 2. 論文標題<br>自由と公序の弁証法 (1) 「営業の自由」論争50年と人権論の現代的地平 | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>行政社会論集                                | 6. 最初と最後の頁<br>292-328 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                  | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)          | 国際共著<br>-             |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>阪本尚文                                    | 4. 巻<br>66 (1)      |
| 2. 論文標題<br>小特集 比較経済史学の思想と実践 高橋幸八郎関連未刊行書簡を中心に 趣旨説明 | 5. 発行年<br>2023年     |
| 3. 雑誌名<br>歴史と経済                                   | 6. 最初と最後の頁<br>19-21 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                    | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難            | 国際共著<br>-           |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>阪本尚文                         | 4. 巻<br>66 (1)      |
| 2. 論文標題<br>外交史・権利の宣言・平和主義 高橋幸八郎の政治的思惟  | 5. 発行年<br>2023年     |
| 3. 雑誌名<br>歴史と経済                        | 6. 最初と最後の頁<br>37-52 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-           |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>阪本尚文   | 4. 巻<br>95 (12)     |
| 2. 論文標題<br>幻の創文社版『憲法綱要』とその批判的検討 (11) 「啓蒙」と中間集団 丸山眞男と樋口憲法学の交錯 | 5. 発行年<br>2023年     |
| 3. 雑誌名<br>法律時報   | 6. 最初と最後の頁<br>83-88 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                               | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                       | 国際共著<br>-           |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>阪本尚文                          | 4. 巻<br>17          |
| 2. 論文標題<br>星童派と戦後歴史学のあいだ 西洋経済史家、岡田與好の出自 | 5. 発行年<br>2023年     |
| 3. 雑誌名<br>大警視だより続刊                      | 6. 最初と最後の頁<br>26-28 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし          | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)  | 国際共著<br>-           |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>阪本尚文                         | 4. 巻<br>17          |
| 2. 論文標題<br>1939・8・23 フランス革命史研究のはじまり    | 5. 発行年<br>2023年     |
| 3. 雑誌名<br>大警視だより続刊                     | 6. 最初と最後の頁<br>23-25 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著<br>-           |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>阪本尚文                         | 4. 巻<br>18            |
| 2. 論文標題<br>大塚久雄草稿類整理・余滴                | 5. 発行年<br>2024年       |
| 3. 雑誌名<br>大警視だより続刊                     | 6. 最初と最後の頁<br>29 - 30 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著<br>-             |

〔学会発表〕 計18件 (うち招待講演 10件 / うち国際学会 0件)

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>阪本尚文                         |
| 2. 発表標題<br>満鉄図書館の旅、満鉄図書への旅              |
| 3. 学会等名<br>警察政策学会令和4年度第2回警察史研究部会 (招待講演) |
| 4. 発表年<br>2022年                         |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>阪本尚文                        |
| 2. 発表標題<br>憲法改正の論点と課題                  |
| 3. 学会等名<br>警察政策学会令和4年度第3回警察史研究部会（招待講演） |
| 4. 発表年<br>2022年                        |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>阪本尚文                        |
| 2. 発表標題<br>1939・8・23 フランス革命史研究のはじまり    |
| 3. 学会等名<br>警察政策学会令和4年度第4回警察史研究部会（招待講演） |
| 4. 発表年<br>2023年                        |

|                                  |
|----------------------------------|
| 1. 発表者名<br>阪本尚文                  |
| 2. 発表標題<br>憲法改正の論点と課題            |
| 3. 学会等名<br>政研フォーラム改革・政策研究会（招待講演） |
| 4. 発表年<br>2022年                  |

|                                       |
|---------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>阪本尚文                       |
| 2. 発表標題<br>高橋幸八郎の戦中と戦後の間 歴史家との交流に着目して |
| 3. 学会等名<br>政治経済学・経済史学会 秋季学術大会         |
| 4. 発表年<br>2020年                       |



|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>阪本尚文   |
| 2. 発表標題<br>コメントへの応答   |
| 3. 学会等名<br>京都大学人文知連携共同研究会「グローバル視点の近代史教育」主催『歴史学の縁取り方-フレームワークの史学史』書評会 |
| 4. 発表年<br>2021年   |

|                                       |
|---------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>阪本尚文                       |
| 2. 発表標題<br>「営業の自由論争」再考 大塚史学の思想連鎖に着目して |
| 3. 学会等名<br>大塚久雄研究会                    |
| 4. 発表年<br>2019年                       |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>阪本尚文                             |
| 2. 発表標題<br>自由と公序の弁証法 「営業の自由論争」50年と憲法学の現代的地平 |
| 3. 学会等名<br>政治経済学・経済史学会冬季学術大会                |
| 4. 発表年<br>2020年                             |

|                                    |
|------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>阪本尚文                    |
| 2. 発表標題<br>東京学派と東北 経済学・法学分野での交流と共創 |
| 3. 学会等名<br>「東京学派」研究会（招待講演）         |
| 4. 発表年<br>2020年                    |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>阪本尚文                            |
| 2. 発表標題<br>市民革命は未完のプロジェクトか？ 講座派歴史学から戦後憲法学へ |
| 3. 学会等名<br>専修大学社会科学研究所主催公開研究会（招待講演）        |
| 4. 発表年<br>2020年                            |

|                                |
|--------------------------------|
| 1. 発表者名<br>阪本尚文                |
| 2. 発表標題<br>なぜいま戦後歴史学か 憲法学の視座から |
| 3. 学会等名<br>福島大学史学会大会（招待講演）     |
| 4. 発表年<br>2018年                |

|                                      |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>阪本尚文                      |
| 2. 発表標題<br>「啓蒙」と中間集団 丸山眞男と樋口憲法学の交錯   |
| 3. 学会等名<br>「幻の創文社版『憲法綱要』とその批判的検討」研究会 |
| 4. 発表年<br>2023年                      |

|                                      |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>阪本尚文                      |
| 2. 発表標題<br>福島大学附属図書館大塚久雄文庫所蔵の草稿類について |
| 3. 学会等名<br>大塚久雄研究会                   |
| 4. 発表年<br>2023年                      |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>阪本尚文                          |
| 2. 発表標題<br>河和田から世界へ 日記・書簡に見る高橋幸八郎        |
| 3. 学会等名<br>河和田を愛した国際的経済学者 回想の高橋幸八郎（招待講演） |
| 4. 発表年<br>2023年                          |

|                                   |
|-----------------------------------|
| 1. 発表者名<br>阪本尚文                   |
| 2. 発表標題<br>高橋幸八郎の戦争 - - 1941-1945 |
| 3. 学会等名<br>政治経済学・経済史学会秋季学術大会      |
| 4. 発表年<br>2023年                   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>阪本尚文                        |
| 2. 発表標題<br>高橋幸八郎の戦争 - - 1941-1945      |
| 3. 学会等名<br>警察政策学会令和5年度第3回警察史研究部会（招待講演） |
| 4. 発表年<br>2023年                        |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>阪本尚文                        |
| 2. 発表標題<br>「啓蒙」と中間集団 丸山眞男と樋口憲法学の交錯     |
| 3. 学会等名<br>警察政策学会令和5年度第4回警察史研究部会（招待講演） |
| 4. 発表年<br>2024年                        |

|                                       |
|---------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>阪本尚文                       |
| 2. 発表標題<br>「規範創造的自由」の行方 樋口憲法学と丸山眞男の交錯 |
| 3. 学会等名<br>「福島と憲法」研究会                 |
| 4. 発表年<br>2023年                       |

〔図書〕 計2件

|                                |                 |
|--------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>阪本尚文                 | 4. 発行年<br>2022年 |
| 2. 出版社<br>八朔社                  | 5. 総ページ数<br>360 |
| 3. 書名<br>知の梁山泊――草創期福島大学経済学部の研究 |                 |

|                               |                 |
|-------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>阪本尚文ほか（共著）          | 4. 発行年<br>2020年 |
| 2. 出版社<br>東京大学出版会             | 5. 総ページ数<br>288 |
| 3. 書名<br>歴史学の縁取り方 フレームワークの史学史 |                 |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

| 6. 研究組織                   |                       |    |
|---------------------------|-----------------------|----|
| 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号) | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号) | 備考 |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

|         |         |
|---------|---------|
| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|